



広報こうし創刊号の表紙を飾った、当時生後3ヶ月だった井島沙希さん。「小学生の時に表紙のことを聞き、何で」と思いましたが、今は誇りに思っています」と笑顔で話しました。

幼い頃の思い出について尋ねると、「習い事で忙しかったのですが、近くの公園や西合志図書館によく行っていました。習字教室やバレエの発表会などで、御代志市民センターも馴染みがあります」と答えた井島さん。【カントリーパークで開催された音楽イベントに昨年初めで、近くの公園や西合志図書館によく行っていました。実家から歩いて行けるので嬉しいです」と、若者らしい一面も覗かせました。

今、大学では勉学に励みながら文化祭実行委員会の活動も楽しんでいます。実家を離れて学生生活を送る中、改めて実感したのが、「ふるさと・合志市の良さでした。『周りの人が温かくて、繋がりも深いですね。そんなに田舎でも都会でもなく、住みやすいと思いました。生まれ育った合志市のことが好きです。大学を卒業したら合志市に戻りたいです』」。



合志市制施行20周年記念式典

とき 5月30日(土)午前10時~

ところ 市総合センター「ヴィーブル」文化会館

内容 功労者表彰・ボランティア表彰など

※一般参加はできませんが、式典の様子は後日、広報こうしで紹介する予定です



激動の時代を乗り越え
次のステージへ

平成18年2月27日、県内14番目の市として産声を上げた本市。当時、52、516人だった人口は、令和6年に65,000人を突破し、全国的に人口減少・少子高齢化が深刻化する中、人口が増加している自治体として注目されました。

この間、熊本地震や令和7年8月豪雨などの自然災害、新型コロナウイルス感染症の感染拡大といった、日常の生活や経済活動などに大きな影響を与える事態を市民一丸となって乗り越えました。

近年は、TSMCの進出を契機としたセミコンソーテクノパーク周辺への半導体産業の集積や、中九州横断道路をはじめとする交通インフラ整備が加速し、大きな変化の波を迎えています。これを好機ととらえ、都市基盤の整備、地域防災力の強化などの取り組みを引き続き進める必要があります。

本市は、誰もが安全・安心に、健康で幸福に暮らし続けることができる都市の実現に向け、次のステージへと歩みを進めます。

令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成31年	平成30年	平成29年	4月
12月 7月	11月	10月	4月	4月	12月	3月	5月	4月	熊本地震発生
大使を委嘱	人口65,000人突破	剣道・渡邊タイ選手に市民栄誉賞	新御代志駅開業	合志楓の森小学校・合志楓の森中学校開校	中九州横断道路「大津熊本道路(合志～熊本)」事業化決定	北熊本スマートインターチェンジ供用開始	分庁方式から庁舎一本化	合志マンガミュージアムオープン	

平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	12月	10月	4月	2月	2月
3月 人口60,000人突破	9月 谷山佳菜子さんと大使第1号に	3月 「カタルパの樹」完成	2月 須屋支所が須屋市民センター内に移転	2月 菊池恵楓園開所	12月 人口55,555人突破	10月 コミュニティバス運行本格開始	4月 自治基本条例制定	2月 ピックに本市出身の藤本貴大選手が登場	合志市誕生

20年間の主な出来事